

大学の価値とは － 学長がつくる大学の魅力 －

2019年3月3日
立命館アジア太平洋大学 (APU)
学長 出口 治明



Shape your world
Ritsumeikan¹
Asia Pacific University

Shape your world

Ritsumeikan
Asia Pacific University

- ◆ はじめに&森の姿
- ◆ 日本の教育
- ◆ APU概要

はじめに&森の姿

3

1. 生きること、働くこと

◆人間は動物である

- 衣食足りて礼節を知る
- 人はパンのみにて生きるにあらず

◆世界経営計画のサブシステム

- この世界をどのようなものとして理解し
- どこを変えたいと思い
- 自分はその中でどの部分を担うのか

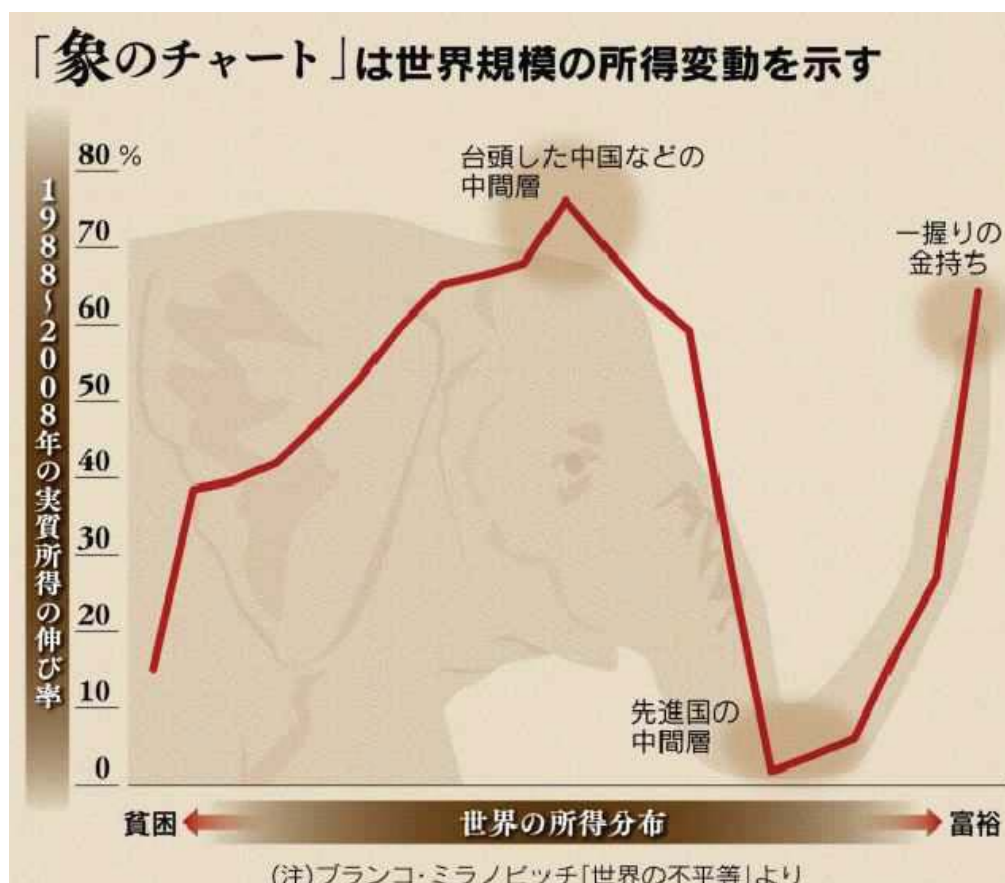
4

2. 森の姿を素直に

- ◆ 森の姿を素直に見なければ、一本の木ですら植えられない
- ◆ 人間はみたいものしか見ない、あるいは見たいよう に現実を変換して見てしまう動物(脳の構造)
- ◆ 記憶ですら、変換される
- ◆ タテ・ヨコ思考の重要性
- ◆ 数字・ファクト・ロジックのみで考える

5

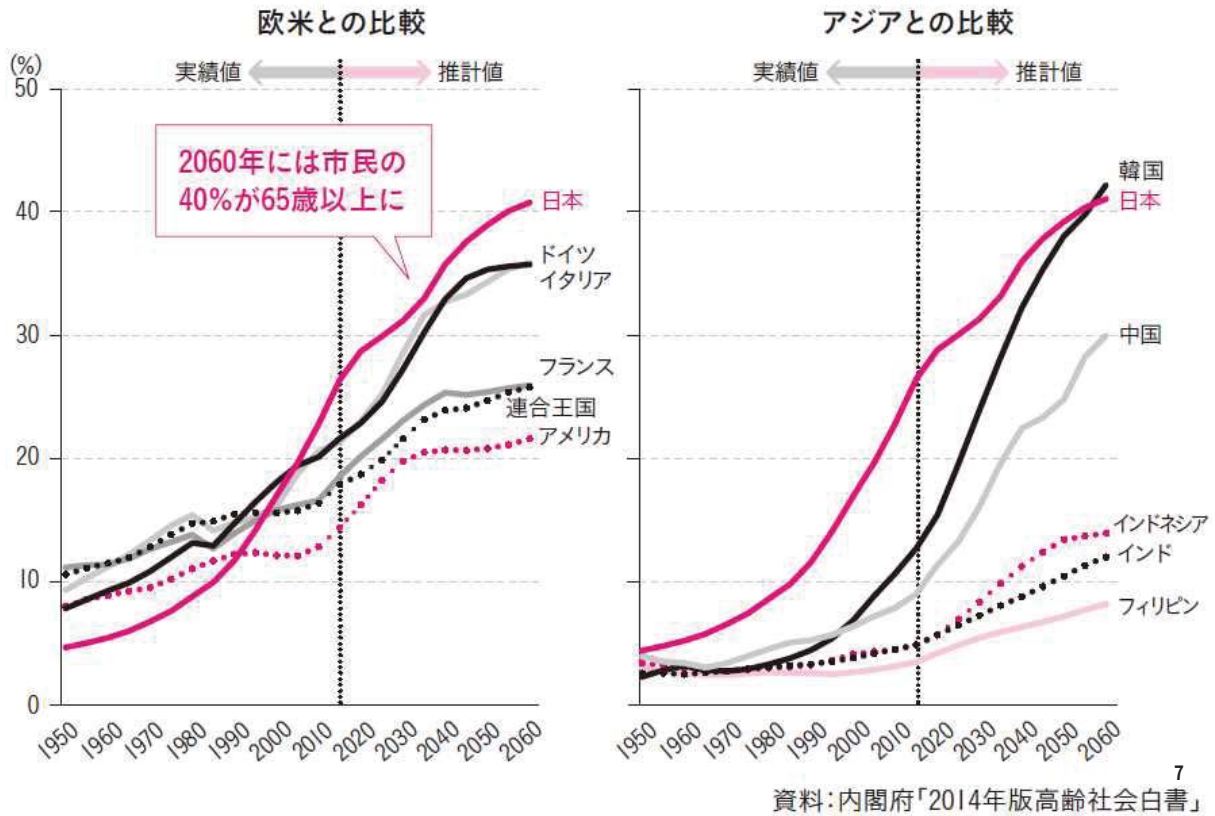
3. 象のグラフ



6

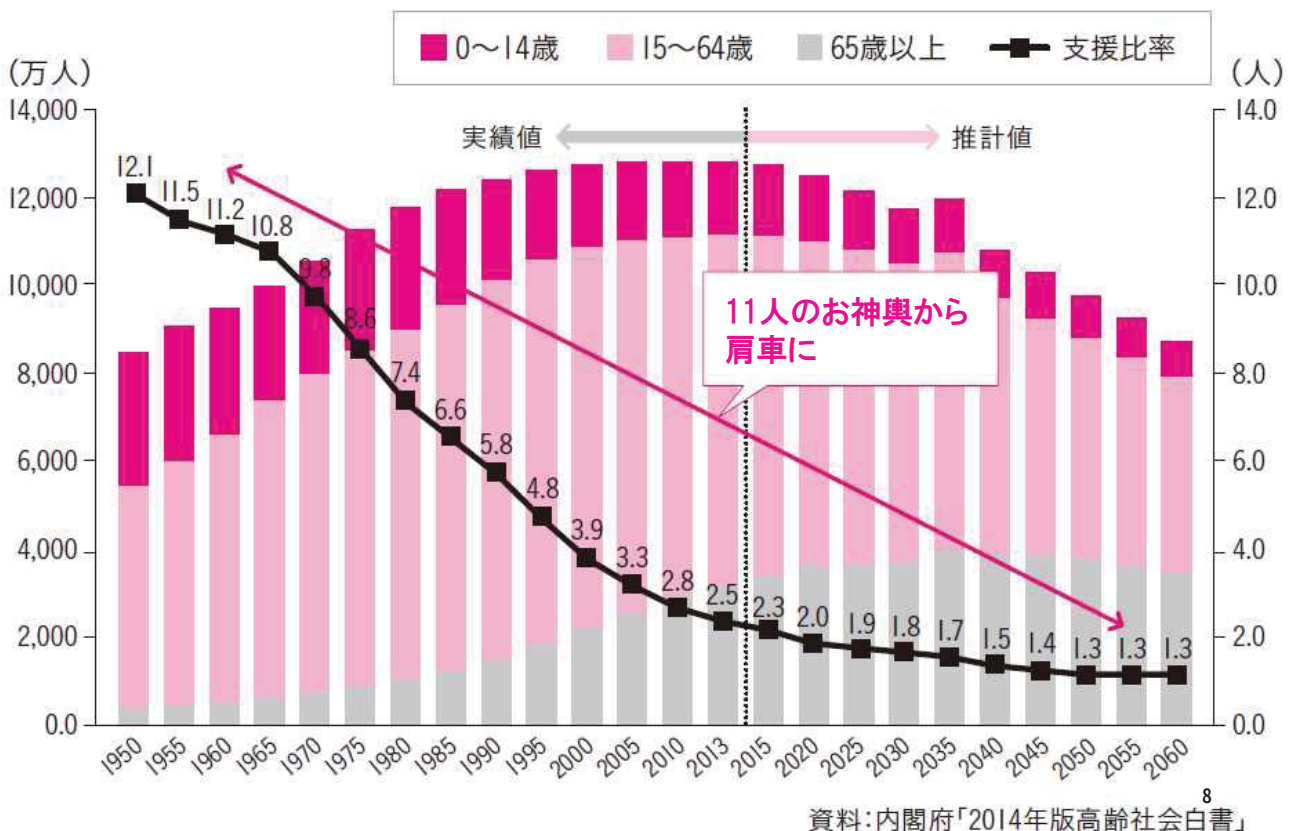
4. 異常な少子高齢化①

65歳以上の対総人口比



4. 異常な少子高齢化②

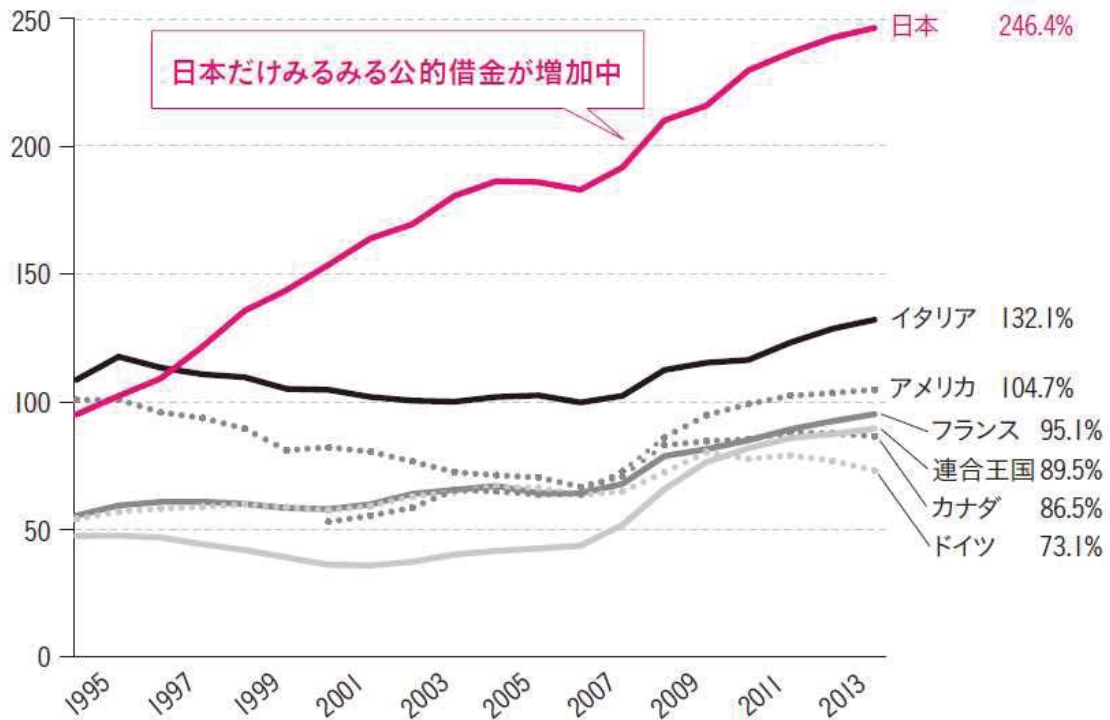
日本の支援比率の推移と将来予測



5. 異常な財政赤字①

(単位: %)

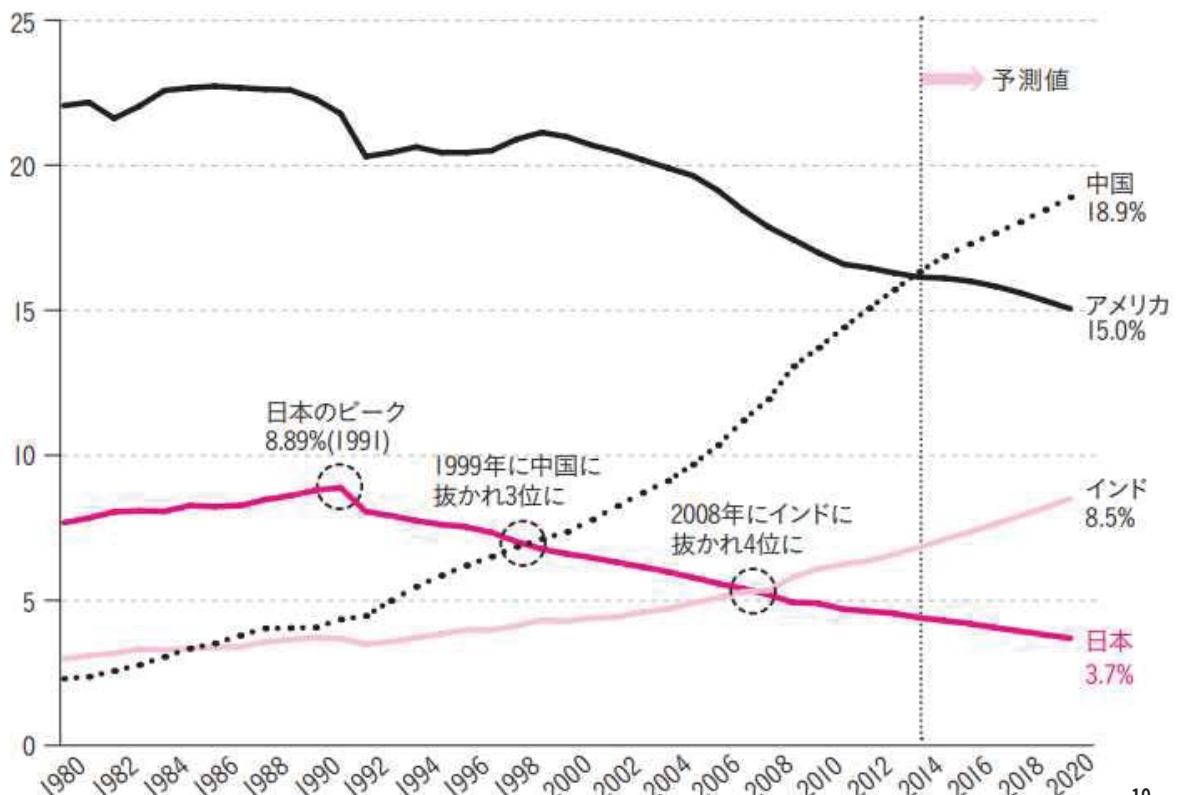
主要国の公的債務残高の推移(対GDP比)



データ: IMF「World Economic Outlook Database (2015.04)」

5. 異常な財政赤字②

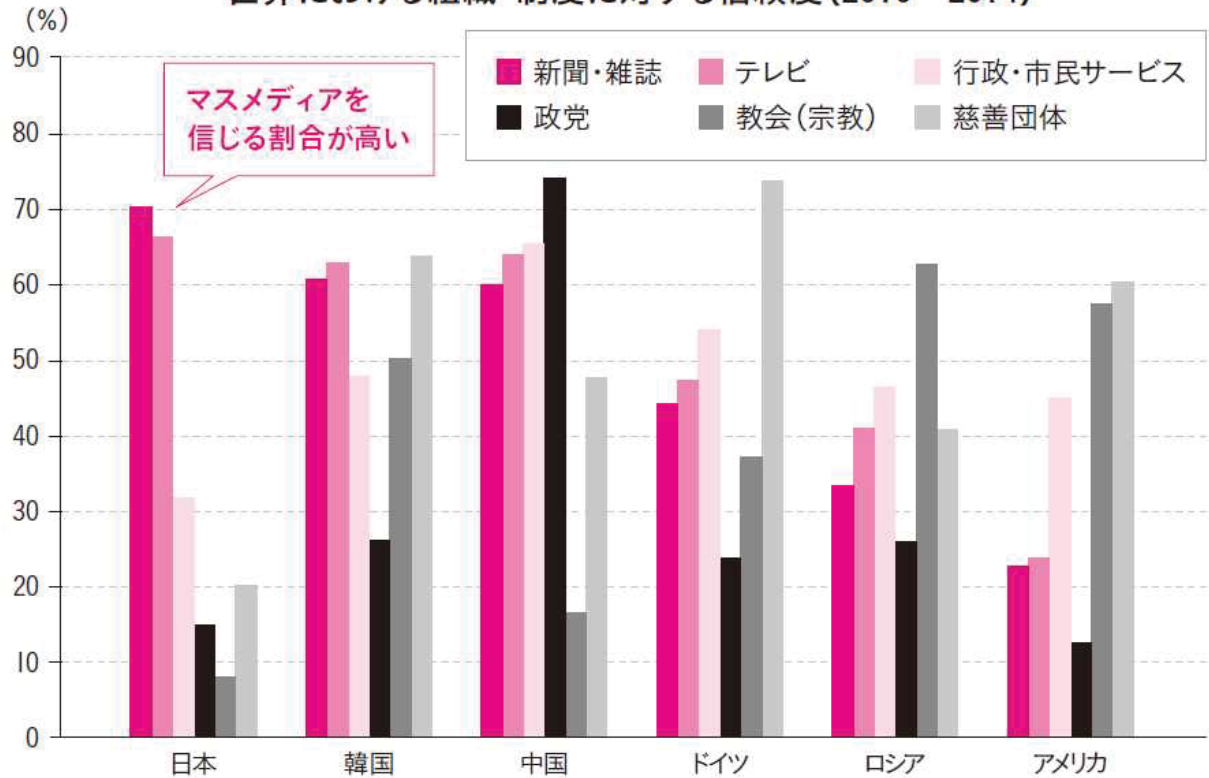
購買力平価GDPの世界シェアの推移



データ: IMF「World Economic Outlook Database (2015.04)」

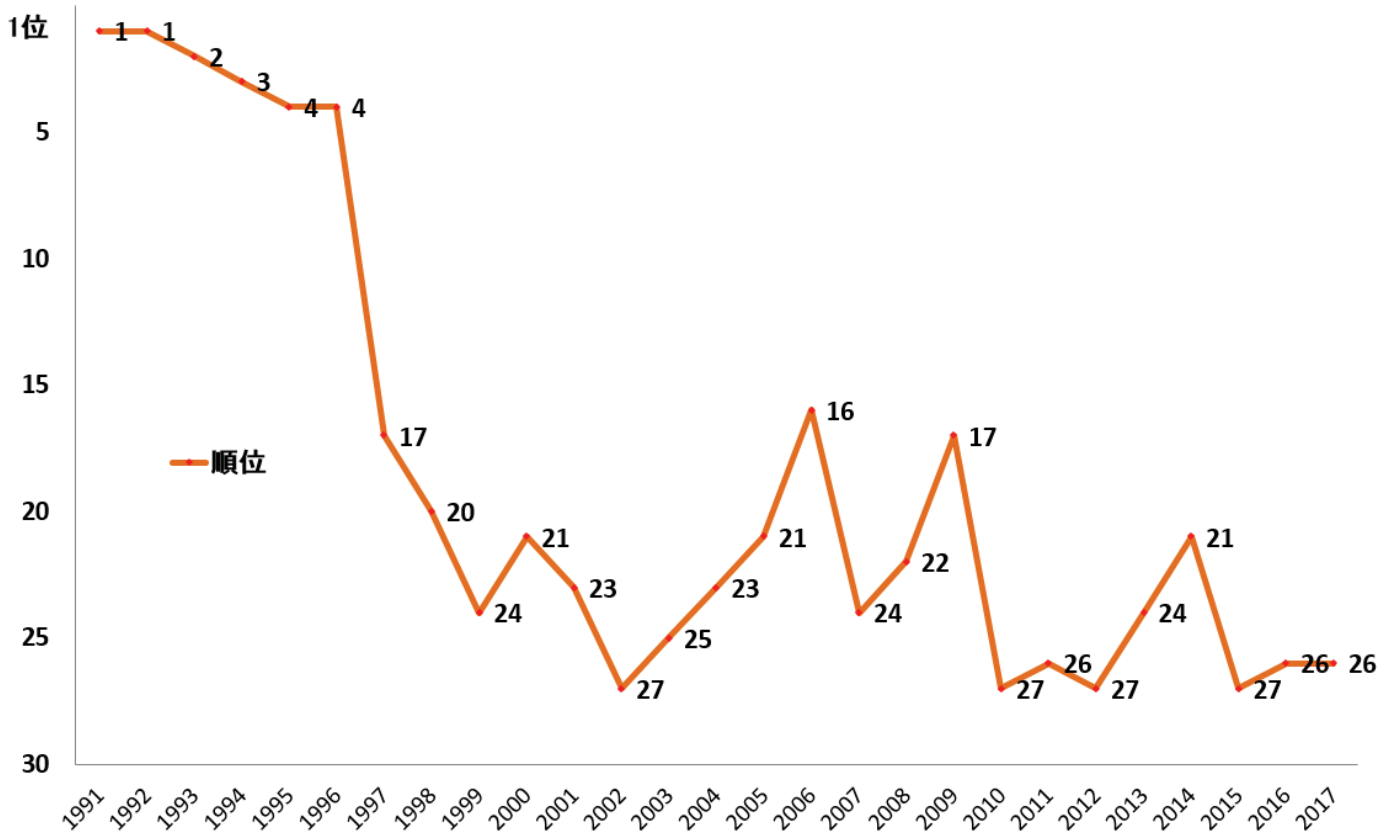
6. メディア vs. 自分の頭で考える

世界における組織・制度に対する信頼度(2010～2014)



資料: 世界価値観調査 (WVS) Wave 6¹¹

7. 日本の国際競争力の推移



出所: 2008年以前の係数は、総務省公表「ICT成長力懇談会 最終報告 "x ICT" ビジョン」、2009年以降はIMD「World Competitiveness Yearbook」に基づく。¹²

8. 日本が成長するには

- ◆ GDP = 人口 × 生産性
- ◆ 人口 → シラク3原則
移民(学生)
- ◆ 生産性 → 労働の流動化

日本の教育

1. 時代背景の違い

- ◆ 製造業の工場モデル
VS サービス産業モデル
- ◆ GAFAやユニコーンは「どこ」で起こったか
- ◆ 高齢化は足枷となるか

2. 教育の歴史

- ◆ ギルド VS スクール
- ◆ 産業革命の要請
- ◆ コメニウス VS ルソー
ー 白紙印刷術 or 「引き出す」
- ◆ 国語と算数は何故重要か

3. 教育の目的

◆2つの目的

◆自分のアタマで考え自分の言葉で
自分の意見を述べる

◆社会で生き抜くための武器
ーお金・選挙・政府・税と社会保障など

4. 企業や社会の責任

◆面接と成績採用

◆大学院生

◆英語力

◆リカレントと働き方

5. 教育機関は、いかにあるべきか

◆初等教育

◆中等教育

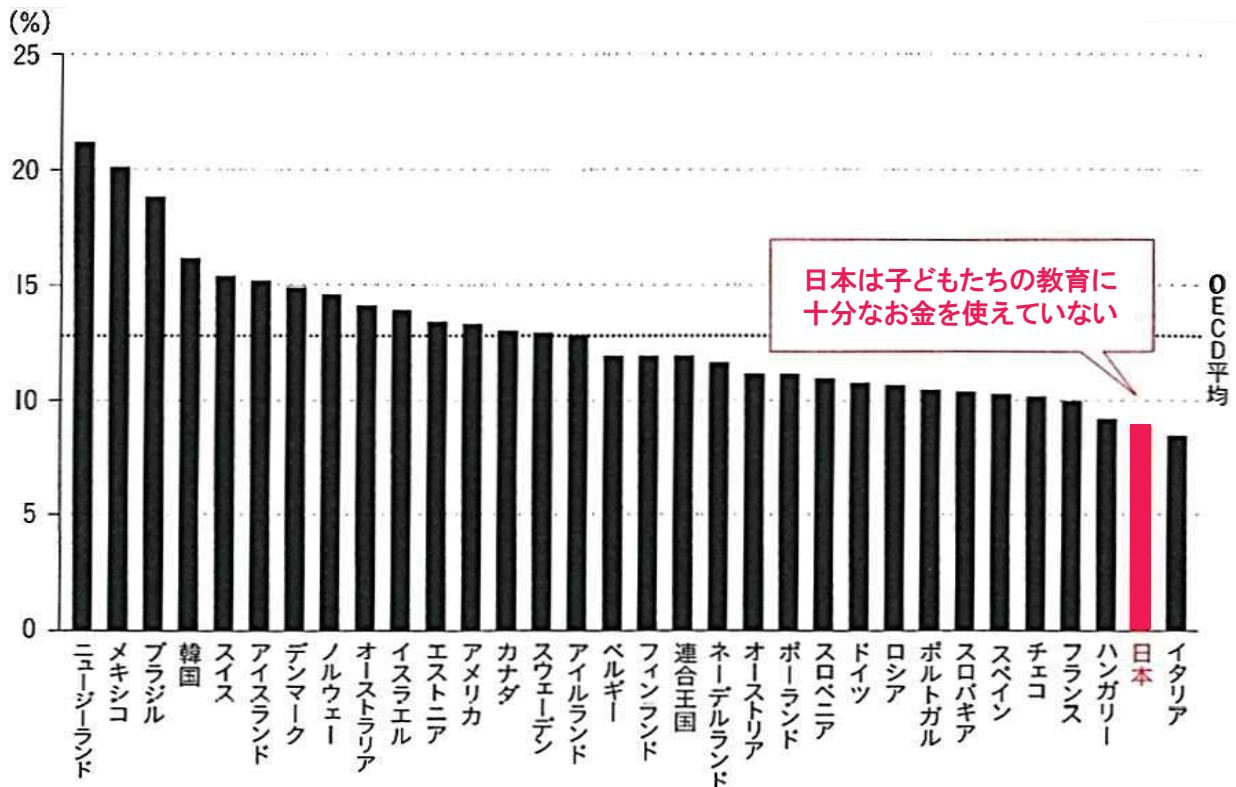
◆高等教育

- 大学の理想、アズハル3信条
- 入試改革
- 大学は社会の先行指標
- 欧米の大学 VS 日本の大学
- 1.05という定員管理は18歳を泣かせる

19

6. 教育費の国際比較①

各国の政府支出における教育関連支出の割合

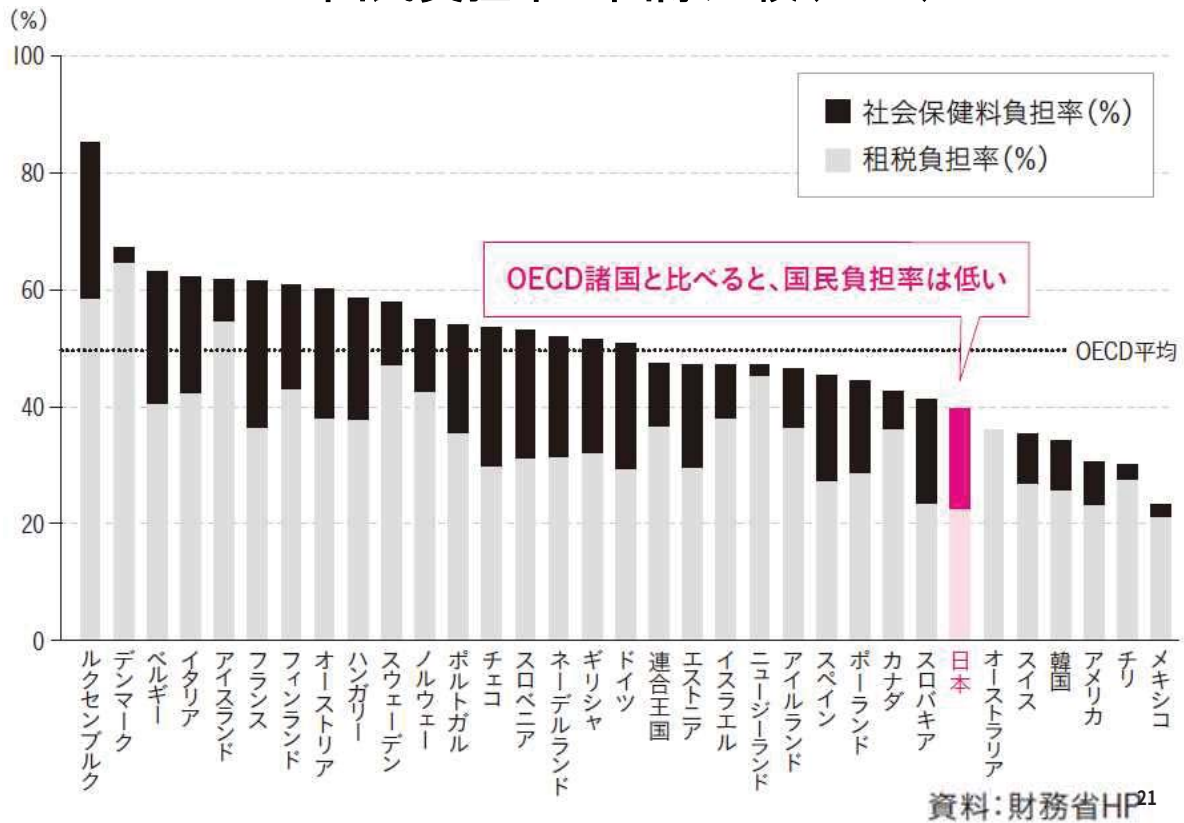


20

資料: OECD「Education at a Glance 2013」

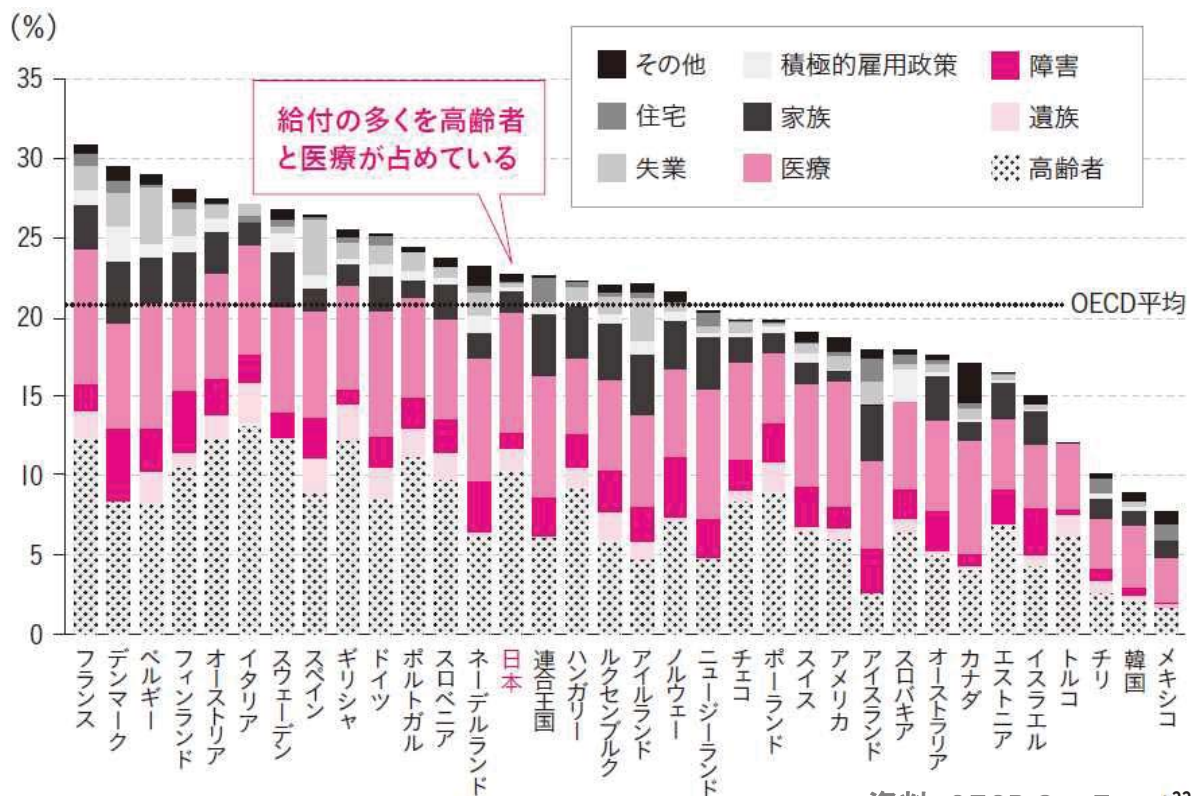
6. 教育費の国際比較②

国民負担率の国際比較(2011)



6. 教育費の国際比較③

社会保障支出の国際比較(2011)



APU概要

23

基本情報①



- | | | | |
|------|--|------|-------------------------------------|
| ●大学名 | 立命館アジア太平洋大学
Ritsumeikan Asia Pacific University | ●学生数 | 5,963名(大学院生、非正規生含む)
(2018年5月1日付) |
| ●所在地 | 〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1 | ●教員数 | 167名(専任教員のみ) |
| ●開学 | 2000年4月学部、2003年4月大学院開設 | ●職員数 | 202名(契約職員含む)
(2018年5月1日付) |
| ●設置者 | 学校法人立命館
(大分県、別府市との公私協力による) | | |

24

基本情報②



●日本国内:9チャプター 国外:26チャプター (2018年12月現在)

北海道、関東、中部、関西、中四国、福岡、大分、熊本、沖縄

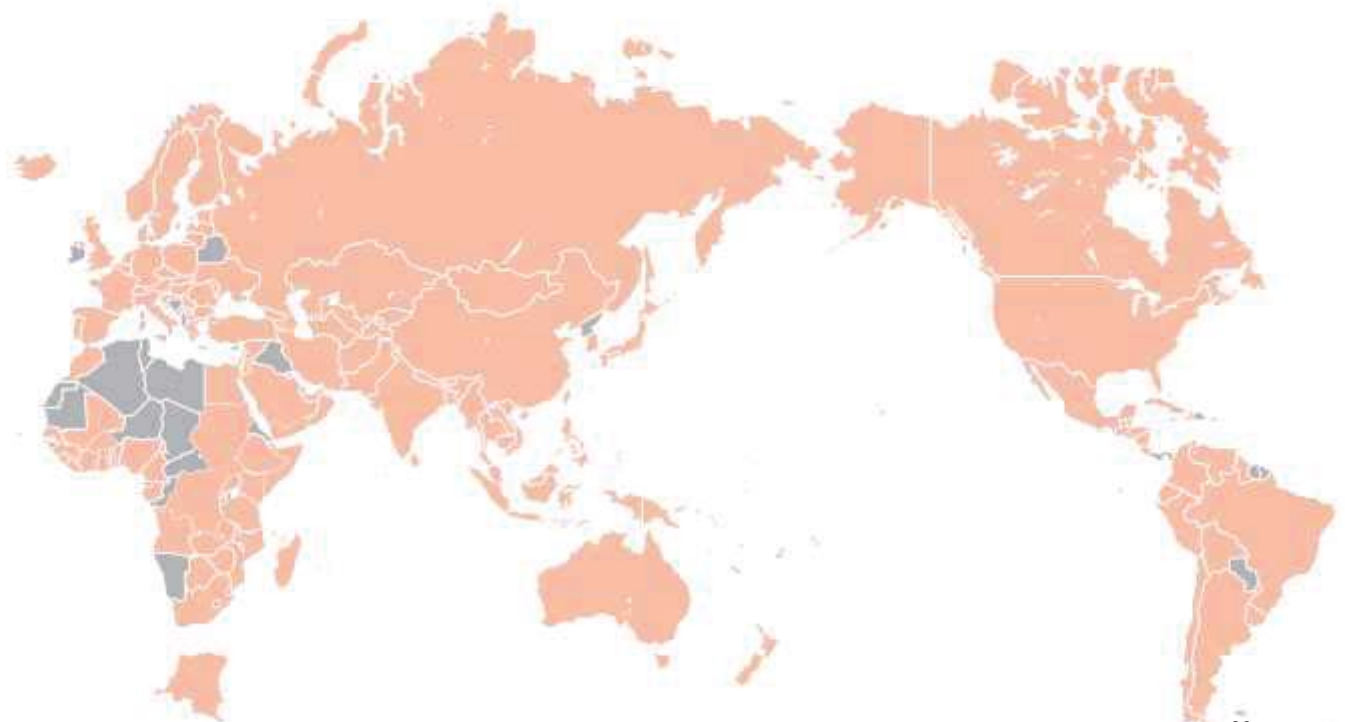
African Resource Centre, Australia, Bangladeshi, Beijing, Cambodia, Dubai, Europe, Hanoi
Ho Chi Minh, Hong Kong, India, Indonesia, Korea, Latin America, Malaysia, Mongolia, Myanmar
Pakistan, Philippines, Samoa, Shanghai, Singapore, Sri Lanka, Taiwan, Thailand, Tonga

25

基本情報③

これまでに世界147カ国・地域の国際学生を受け入れました。

世界中から学生が集まり、多文化・多言語環境を有するAPU。「知と友情のネットワーク」は全世界に広がっています。



※色がついている国・地域は、これまでに入学したAPU国際学生の出身国・地域 (2018年5月1日現在)

26

「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」

立命館アジア太平洋大学開学宣言

人類は有史以来、地球上のさまざまな地域において自らの文化を築き、文明の進化を求めて多様な営みを繰り広げてきた。人類はまた、さまざまな制約と障壁を超えて、自由と平和とヒューマニズムの実現を求め、望ましい社会のあり方を追求してきた。

20世紀は政治・経済・文化のすべての領域においてかつてない進歩と飛躍の時代であり、人間の諸活動は地球規模で展開されるに至った。また、二度にわたる世界大戦の経験を通して、国際連合をはじめとする国際協力のための機関が設立され、平和維持と国際理解に向けての取り組みが大きく前進した。

我々は、21世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生が不可欠であると認識する。この認識に立ち、我々は、いまここにアジア太平洋の未来創造に貢献する有為の人材の養成と新たな学問の創造のために立命館アジア太平洋大学を設立する。

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日、大分県と別府市、さらに国内外の広範な人々の協力を得て、別府市十文字原に誕生した。世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、立命館アジア太平洋大学の開学をここに宣言する。

2000年4月1日²⁷

APUの2030ビジョン

「APUで学んだ人たちが世界を変える」

この多文化が共生する国際社会には多様な価値観が存在し、対立や摩擦が否応なく生じる。異なる文化と価値観の違いを認めて理解し合い、自由で平和な世界を築く「世界市民」を育成する。これが、APUの目指す「自由・平和・ヒューマニティ」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」という理念の核心である。

APUで学んだ一人一人が、自由と平和を追求する人間として、人間の尊厳に対する畏敬の念を抱き、世界で、日本で、それぞれの住む地域や立場で、他者のために、社会のために行動することにより世界が変わる。

APUで育つ「世界を変える」人とは

- ・他者と協議し、対話を軸に対立を乗り越え、社会に影響を与えることができる。
- ・異なる文化との衝突や遭遇したことのない困難への耐性がある。
- ・多様な視点やアイデアから、新しい価値を創造することができる。
- ・自分自身のゴールを描き、生涯学び成長し続けることができる。

「世界を変える」人を育てるためにAPUは

- ・比類ない多国籍・多文化環境を活かして、世界市民として成長するための学習や活動の機会及び生活環境を提供し、世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティを創成する。
- ・教育・研究の質を絶え間なく向上させ、世界で通用する新たなグローバル・ラーニングの価値を創造する。
- ・APUの財産である世界中の卒業生や地域社会のステークホルダーとのつながりを深化させ、教育活動や大学運営で協働する。

世界

89

**力国・地域からの
国際学生2,952名と国内学生2,887名
合計5,829名が学ぶ国際大学**
(2018年11月1日付／学部生、大学院生、交換留学生などの非正規生含む)

開学以来、学生が在籍したことのある国・地域

152

学生数のうち外国人留学生比率 50.6%

※大学院生、非正規生含む

外国人留学生のうち正規生比率 96.8%

教員総数 167人
外国籍教員総数 82人
外国籍教員比率 49.1%
(2018年5月1日付)
※総数は専任の教授、准教授、助教、講師の合計



学部・大学院

学部

アジア太平洋学部

入学定員 660名/年

国際学生が約半数

英語・日本語を徹底的に鍛える言語教育

学部は日英二言語、大学院は英語のみで開講

約半数を占める外国籍教員から世界の「いま」を学ぶ

国際経営学部

入学定員 660名/年

環境・開発

観光学

国際関係

文化・社会・メディア

会計・ファイナンス

マーケティング

経営戦略と組織

イノベーション・経済学

大学院

アジア太平洋研究科 博士前期課程
入学定員 60名/年

アジア太平洋研究科 博士後期課程
入学定員 10名/年

経営管理研究科（修士課程）
入学定員 40名/年

数字で見るAPU①



THE 世界大学ランキング 日本版

※英国教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)による世界大学ランキング2018日本版。ランキングは、教育リソース/教育充実度/教育成果/国際性の4分野を指標として構成されます。

- ・ 西日本の私大で「No.1」評価
- ・ 全国21位、全国私大5位にランクイン

全国 私立大学トップ5
1位 慶應義塾大学 (東京)
2位 早稲田大学 (東京)
3位 上智大学 (東京)
4位 国際基督教大学 (東京)
5位 立命館アジア太平洋大学 (大分)



※AACSBとは、ビジネス教育の国際的な認証評価機関であるAACSBインターナショナルより、世界でも最高水準の教育を提供する教育機関として認証する制度
世界に約16,000あるビジネスユニット (スクール) のうちトップ5%52カ国775校のみ取得

(国際経営学部・経営管理研究科)

入学時に日本語の能力を問わず、英語での受講のみで学位を取得できる学部と大学院一体での取得は日本初

国内取得大学
1校目 名古屋商科大学
2校目 慶應義塾大学 大学院経営管理研究科
3校目 立命館アジア太平洋大学 (私立)



(アジア太平洋学部 観光学分野)

- ・ 日本の私立大学では、初の認証取得。
- ・ 世界における認証校は、71大学のみ

※tedQualとは、国連世界観光機関 (United Nations World Tourism Organization: UNWTO) が実施する観光学教育、研究、訓練プログラムの質向上を目的とした認証制度

国内取得大学
1校目 和歌山大学 (国立) 31
2校目 立命館アジア太平洋大学 (私立)

数字で見るAPU②

日本・世界から集う
学生数

5,829

学生に占める
留学生の割合

50.6%

学生の出身国・
地域数

89

開学以来の入学者
出身国・地域数

152

国内学生
就職率

98.2%

海外協定大学
機関数

465

国際通用性のある教育システム

学生をしっかり学ばせる教育システム

春・秋の2回入学とクォーター制の採用

- 開学以来、春と秋、年2回の入学・卒業を実施
- クォーター制(1クォーター=2カ月)とセメスター制の併用により、柔軟な学習スケジュールが可能
- 集中的な学び(同一科目週2回)で学習の節目・山場が頻繁に

日英二言語教育 ※学部のみ

- 「英語を学ぶ」から、「英語で学ぶ」へ
- 習熟別クラスと少人数授業で徹底的に鍛える言語教育
- 多文化キャンパスのいたるところで鍛えられる言語運用能力
- 授業ではプレゼンテーションやディスカッションを多用

体系的なカリキュラムと国際基準の成績管理

- 科目レベルと履修の順次性を示す科目ナンバリング
- 5段階評価とGPA(Grade Point Average)による厳格な成績管理
- 期末試験は成績の50%以下、日々の学習や授業参画状況も評価
- 海外の大学で採用されているUMAP単位互換方式(UTCS)を採用

協働学習環境

- 学生が学びあう環境、文化
- 多様な学生スタッフが大学運営や教育活動に参画
- 言語自主学习センター「SALC」で学生同士が教えあう
- ラーニング・コモンズで活発なグループワーク



33

多彩なアクティブ・ラーニング

国内・外、短期・長期と多様なプログラム
日本人学生は卒業までに一度は海外での学びを体験することを目指す

異文化を体験する



FIRST (1回生向け異文化体験学習プログラム)
言葉の通じない国・地域で調査を行う新入生対象のプログラム

言語運用能力を高める



言語イマージョン (海外言語集中研修)
海外の大学のキャンパスや大学付属の語学学校などで集中的に学習

専門を学ぶ



交換留学・共同学位
交換留学では、現地の学生とともに専門の科目を履修



フィールド・スタディ (専門分野調査研究型プログラム)
専門分野の理解を深めるために、現地で調査と研究を 34 行う

国際教育寮 APハウス1. 2(キャンパス内)

違いを知る。認める。そのうえで課題についてとことん話し合い、「解決策」を導き出す力を育む

互いの生活習慣や 価値観の違いを知る



- シェアタイプは日本人学生と国際学生が隣り合わせ
- 共同キッチンで互いの国・地域の食文化に触れる

ともに暮らすためのルールを作り、 学生スタッフが運営する

- RA(レジデント・アシスタント)が寮生を24時間サポート
- 各種イベントの企画・運営
- フロアを巡回、ゴミ分別チェック



52カ国・地域 1,159名がともに暮らす
2018年5月1日現在



学び合い、 助け合う心を養う



- 日常生活の空間で他言語・多言語学習
- 授業やレポートの教え合い・学び合い
- 毎月フロアミーティングを実施

イベントを通じて 交流を深める

- フロアや棟ごとにパーティーやイベントを開催
- 各国の文化を紹介する企画
- 広島・沖縄などを目的地にし、「平和」をテーマとしたピースツアーを開催
- 世界祭(寮祭)の実施



シングルタイプ932室+シェアタイプ378室=1,310名 収容可能

35

国際ボランティア・地域交流

国際ボランティア : 現地で、現地の人とともに、現地が抱える問題の解決に取り組む

戦争や紛争で傷ついた子ども達に治療の機会を提供



〔団体名〕
PeaceXPiece
〔活動地域〕
ドイツ など

途上国の住環境改善をめざして住宅建設サポート



〔団体名〕
ハビタットAPU
〔活動地域〕
ネパール、タイなど

地域交流 : 日本や地域の文化に対する理解を深めるとともに、地域の活性化に貢献

地域のお祭りや行事への参加、市民講座などでの異文化交流を通じて、地域社会とともに成長する



就職実績

国を越えるコミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

国内学生 ▶グローバル企業を通じて全世界へ

国際学生 ▶日本企業 or 母国へ

2017年度 就職決定率

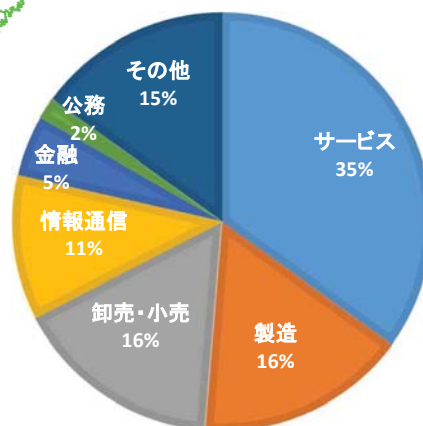
96.6%

就職決定率＝就職決定報告者／就職希望者（2018年3月31日現在）

国内学生 就職決定率 **98.2%**

国際学生 就職決定率 **94.2%**

■産業別就職者割合



その他には、外国企業・業種不明者・ならびに家業従事者、起業を含む

■日本国内における進路先

九州・沖縄（大分を除く）

14%

中国・四国

3%

関東

56%

中部・北陸・近畿

18%

その他

3%

大分 **6%**



キャリアサポート

日本人学生と国際学生を分けずに就職サポート

1
回生

初年次からのキャリア教育

- キャリアや留学を見据えた系統学修等の個人相談・面談
- 「APUリテラシー」で将来のキャリアをイメージし、大学での学びを考える
- 「キャリアデザインⅠ」での自己理解をもとに自分らしい生き方を探る

2
回生

インターンシップ

- 企業や団体で実務を経験、仕事への理解を深める
- 派遣先は国内のみならず、海外の企業や政府機関、NGOも
- 「協定型インターンシップ」を修了すれば、単位取得が可能

3
回生

キャリアデザイン科目の系統履修

- 「キャリアデザインⅡ（2回生配当）」企業・業界分析
- 「キャリアデザインⅢ（3回生配当）」企業との協働プログラム

4
回生

オンキャンパス・リクルーティング

- 企業人事がAPUに来学、採用活動をキャンパスで行う

年間 **300社以上** が来学

多角的なネットワーク

開学前から、教育研究機関や自治体との連携のみならず、
経済界、学术界など、世界のトップリーダーから多岐にわたるご支援

経済界・学术界

Academic Advisors

46名 ※2018年4月1日時点
ノーベル賞受賞者をはじめ、
国内外の研究者や教育関係者から、
教育・研究面でご支援

Advisory Committee

246名 ※2018年4月1日時点
世界の元首・大使、
日本経済界を代表するリーダーから、
奨学金、就職、インターンシップ受入れなどでご支援

Supporting Group

236企業・個人 ※2000年4月時点
から、開学時に留学生奨学金などでご支援



教育研究機関

海外協定大学機関数 **465**

※2018年5月1日時点

自治体

地域とのネットワーク
大分県と県内外21市町村と友好交流協定 締結
長野県飯田市、宮城県気仙沼市、福岡県福岡市
(県外協定締結都市)

年間 **12,591** 名の小中高生が来学
※2017年度実績



ご参考①



わたしたちの成り立ちを知るために

- ①『宇宙論と神』 池内 了

わたしたちが動物であることを知るために

- ②『パパは脳研究者 子どもを育てる脳科学』 池谷 裕二

わたしたちの住む国を知るために

- ③『昭和史』 半藤 一利

- ④『クアトロ・ラガッツィ』 若桑 みどり

現代の金融・経済・社会を知るために

- ⑤『日本経済論講義』 小峰 隆夫

- ⑥『人口と日本経済』 吉川 洋

- ⑦『新・所得倍増論』 デービッド・アトキンソン

- ⑧『バブル』 永野 健二

- ⑨『生産性』 伊賀 泰代

- ⑩『答えのない世界を生きる』 小坂井 敏晶

- ⑪『生物学的文明論』 本川 達雄

- ⑫『厚生労働白書(平成24年版)』 厚生労働省

企業の皆さまへのお願い

立命館アジア太平洋大学（APU）は、学生の半数が世界約90の国・地域出身、専任教員の半数も世界23の国・地域の出身という世界でも類をみない国際的な学修空間を構築しております。開学時から当大学は、企業の皆さまより多大なご指導とご支援を賜っており、現在はこの多文化環境を活用して、企業や各種機関の皆さまを対象とした国際研修など、様々な事業を実施しております。学生の採用活動に加え、御社におかれましても当大学との連携事業をご検討いただけますと幸甚に存じます。

【APUの価値】

1. 母語に加えて英語をベース言語とし、日本語も理解する正規課程の留学生
2. 日本的価値観と多文化・多宗教・多言語の価値観が混ざり合う学修・生活環境
3. コミュニケーションツールとしての英語やその他の外国語の豊富な実践環境
4. 世界中、とりわけ経済発展の著しい東南アジア、ASEAN諸国のグローバル人材とのネットワーク（卒業生組織が世界24カ国・地域に存在）
5. 国際的に高い評価を受けている国際経営学部とアジア太平洋学部の2学部で構成

【企業連携プログラム】

1. GCEP (Global Competency Enhancement Program)

APUにおける2ヶ月間の企業研修プログラム（4ヶ月コースも可）。世界中の学生と英語で経営学の授業を受講。授業以外では各国の学生と1：1のディスカッションを設定（英語以外も対応）。国際寮（APハウス）に住み、24時間多文化環境に身を置くことにより、異文化対応力と言語運用能力を高めます。

2. GCEP カスタマイズ

目的に応じた短期集中研修。

- （一例）■ベトナム赴任前研修として、ベトナム学生から言語・文化を学ぶ集合研修
- 社内管理職と海外で現地採用された管理職の合宿型研修。本学の多国籍学生と共にケーススタディに取り組み、多文化混成によるプロジェクトマネジメントを実践。
- 現地採用職員の日本語集中研修（4ヶ月～1年）

3. 多国籍学生による企業の経営課題に対するビジネスソリューションの提案

企業が実際に抱える課題に対し、経営学を学んできた4年生の学生がソリューションを提案する「キャップストーン科目」における連携プログラム。企業の皆さまには、多国籍の学生に自社課題や戦略をわかりやすく伝え、想定外の質疑に応えつつ、最後のプレゼンまでご指導いただくため、次世代リーダーの研修の場としても最適です。

■お問い合わせ■

APU事業課 前原

電話：0977(78)1106 Eメール：gcep@apu.ac.jp

ウェブサイト：http://r.apu.jp/gcepinfo

【学生の採用およびインターンシップのお願い】

1. 業界研究、実践的な企業等の理解に向けた取り組みへのご協力

日本での就職を希望する留学生が日本企業の特徴、働き方、求める人材像を理解できるよう、企業の方々に学期中のAPUキャンパスへお越しいただき、ワークショップ等を実施していただいております。卒業生の先輩から日本語学習の重要性、企業における外国人材に求められる力などについて語っていただく機会も設けておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2. オンキャンパス・リクルーティング

企業説明会やグループ面談、個別面談、筆記試験等、採用に関する一連のプロセスをAPUのキャンパスにて行っていたくもので、毎年200を超える企業人事ご担当者様にご来学いただいております。企業・団体の皆さまの具体的なニーズに対応して実施し、これまでに多数の学生が採用していただいております。

3. インターンシップ

当大学では、学生にインターンシップへの参加を奨励しています。学生の休暇期間中（2～3月、8～9月）が基本となりますが、国内のみならず、海外拠点におけるインターンシップの機会についても、ぜひご検討ください。企業・団体の皆さまに直接学生を見ていただく絶好の機会となります。

■お問い合わせ■

APUキャリアオフィス 滝上・福川

電話：0977 (78) 1128 Eメール：career1@apu.ac.jp

ウェブサイト：http://r.apu.jp/career1

ご参考③ APUを支えてくださる皆様へ

【APUへのご寄付のお願い】

学長として、APUの強固な財政基盤を整え、よりよい教育・研究が出来る環境を整備します。
一人でも多くの皆さまにAPUを知っていただき、APUファンになっていただけるよう頑張ります。
「小さな地球」であり「若者の国連」であるAPUに、皆さまの温かいご支援をお願いします。

●One APU 寄付ウェブサイト

- 寄付ご案内やメニューの詳細、出口学長メッセージ動画など様々なコンテンツをご用意しております。
- メルマガに登録くださった方に、毎月、近況報告、イベント、卒業生ニュース等をお届けします！

●定額継続寄付プログラム

- 1口1000円からAPUをご支援いただける定額継続寄付をご用意しております。
- クレジットカードで決済が可能です

●プロジェクト型のご寄付

- 様々な寄付メニューをご用意しております。
- ・ APUグローバルリーダー育成奨学基金
- ・ ネームプレート募金
- ・ カルチュラル・ワゴンキャンプ支援
- ・ Global Alumni Lecture (GOAL)運営支援
- ・ キャンパス施設の整備・リニューアル
- ・ キャンパス自然環境保全
- ・ グローバルビジネスケースチャレンジ (GBCC)
- ・ インドネシア・ウィークご支援、など

学長メッセージ動画



寄付メニュー紹介



URL: <http://r.apu.jp/give>

■お問い合わせ■

APU事業課 大嶋・前原

電話: 0977 (78) 1106 Eメール: giving@apu.ac.jp

ウェブサイト: <http://r.apu.jp/give>